

知 井小学校は、全校児童30人の極小規模校です。校区にはかやぶきの里や京都大学研究林などがあり、人々の豊かな営みと美しい自然に恵まれた地域です。少子・高齢化の中で地域振興の活動が盛んで、府内で唯一山村留学制度を実施し、留学生が山村留学センターや里親宅で生活しながら、本校で学んでいます。留学生の多くは、近隣府県から来ており、14年間で100人を超えています。

少 子化が進み、留学生が占める割合が高くなり、1年ごとに全校集団が変わる状況となり、毎年新しい仲間を迎えての学級づくり・仲間づくりを重ねています。

そんな中、子ども同士のつながりを深め、思いやりの心を育てる教育活動、また、ふるさとを知り、誇りをもてるような教育活動を進めています。

今秋の運動会では、全校児童の表現運動で最終演技を締めくくり、全員が一つになった姿に保護者や地域の皆さんから感動の拍手をいただきました。「一人一人がかけがえない仲間」と、児童たちが

一体感を感じた瞬間だったと思います。

互 いに励まし合い、一つのことを成し遂げることで、より良い関係を築くことができます。

周囲の人からの声掛け、あいさつをはじめ、ふるさとを見つめる学習や高齢者とのふれあい活動などを通して地域の人から学び、人々とのつながりや温かさを感じることでしょう。これらのことが「自分は愛されているから他人も大切にする」という人間愛、郷土愛を育み、学ぶ力・つながる力の土壌となると考えています。子どもたちが仲間と共に学び合い、自らの進む道を拓く人間に育ちゆく一助になりたいと考えています。



(知井小学校 人権教育主任

稲葉 学)

環・境・市・民
 感謝!
 エコ発見
 エコちゃん
 第22回



刑部ふれあいサロンは、平成17年4月から公民館の有効活用とお年寄りや子どもとの居場所づくりを目的に、毎月1回「ふれあいセンター刑部」で行われています。環境学習会やエコ小物作りから始まり、今では、昔ながらの茶葉作りやしめ縄作りも行われています。また、グリーンカーテンから収穫したゴーヤで作る料理教室や、ゲートボールなどのスポーツに挑戦するなど多彩な活動内容。サロンで何をするかを決めるのはメンバー自身。互いに教え合い、アイデアを

出し合う。そんな気軽な交流の場がサロン参加者の元気の源になっています。

今回のエコロジスト
刑部ふれあいサロン代表
 芦田美子さん
 (八木町刑部)



芦田さんがふれあいサロンを始めるときつ

けとなったのは、当時八木町で実施した公民館の環境講座。講座を受講し、自分の住む地域の環境は自分たちで守りたいと強く思われたそうです。「今こうしてサロンが続けられているのも、準備を手伝ってくれる人や意見を出してくれる人がたくさんいるおかげです。毎回15人くらいが集まり、環境にこだわらず、いろんなことに挑戦して、お互いに元気をもらっています」。

9月のサロンでは、新聞でエコバッグ作りに挑戦しました。和やかな雰囲気の中、皆さん楽しく活動し、お気に入りの作品を作りました。(環境課)